

献 辞

学 長 神 木 哲 男

伊藤孝治先生は、平成13年3月をもって、停年により本学を退官されたが、平成6年4月に本学（当時奈良県立商科大学）教授に就任されて以来、7年にわたって英語の研究と教育を通じて本学の発展に尽くされた。

先生は、昭和11年2月2日に京都市でお生まれになり、昭和37年4月大阪市立大学文学部二部英米文学科をご卒業、昭和44年9月に関西大学大学院文学研究科英語英米文学専攻修士課程を修了され、文学修士の学位を得られた。昭和44年4月から昭和51年3月まで大阪女子学園高等学校教諭として勤務されたのち、昭和51年4月に愛泉女子短期大学助教授に就任され、昭和54年4月同短期大学が改称された堺女子短期大学教授に昇任された。同短期大学で教養科主任、学生部長などを歴任され、平成6年4月、本学に教授として着任された。

先生のご専門は英語学であるが、堺女子短期大学在勤中は、主として14世紀のイギリス詩人・ラングランド William Langland の作とされる長編詩 The Vision of Piers the Plowman (B-Version) を題材にして、そこで用いられた関係代名詞・不定詞・接続詞や仮定法などについてその語法や用法を分析され、それぞれの特徴を明らかにする一連の研究を発表された。

本学に着任されてからは、英語に採り入れられた日本語、英語化した日本語の問題に研究を集中され、どのような日本語が英語化しているのか、また日本語が欧米の文献に採り上げられた時期等について数多くの論考を発表されている。その研究成果は、ご労作『海のかなたの日本語―英米辞書に見る―』（大阪教育図書 平成13年）として結実している。

先生は、教育においてもきわめて熱心に学生を指導され、先生の講義は、その温厚・篤実なお人柄によって多くの学生を魅了し、聴く者に深い感銘を与えられた。

学内行政においても、教務委員・就職指導委員・自己点検評価委員などを歴任され、とくに平成8年4月から2年間、就職指導委員長、平成10年4月から2年間、教務委員長をつとめられ、学生の就職先の開拓にあたられ、また、授業計画の立案やカリキュラムの改善に力を尽くされるなど、大学の発展に寄与された。さらに大学改革に際しては、新学部創設実行委員会の委員として改革の計画策定に参画され、大学の新発足のために大きな力を与えられた。

本学は、先生の大学・学界・社会に対する多大のご貢献を讃え、感謝の微意を表すため先生に本学名誉教授の称号をお贈りした。

先生が、いつまでもご壮健で、ますますご活躍されることを心からお祈りしたい。